

山 報

高幡不動尊



「奉納神輿」四季の部 銀賞
日野市 設楽 誠一

井の中の蛙

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉田 純一

幼い頃は漫画に熱中し、高校に入ると木炭デッサンに出会い、勉強そっちのけでデッサンに没頭した三年間を過ごしました。そんな私を見ていた父から、僧侶になり寺を継いでほしいと言われ、好きな絵の道に進むか、それとも僧侶の道を選ぶか悩んだ末、美術大学と宗門の大学の両方を受験しました。しかし、美大には不合格となり、宗門の大学には合格。夢であった絵の世界をあきらめ、僧侶の道へ進むことになりました。当時、大学では学生運動が盛んで、ほとんどロックアウト状態。結果として、またしても勉強には身が入らず、社会勉強ばかりしていました。その後、大学を卒業してから五十年以上、高幡のお不動さまと実家の寺に仕え、現在に至っています。

漫画の世界、絵の世界、学校外の世界、そして僧侶の世界へと、私の視野は広がりが、新たな視座を得る機会に恵まれました。しかし、それぞれの世界の深みを極められたかと問われれば、まさに「井の中の蛙、大海を知らず」のような有様でした。

そんな私ですが、次の宗祖弘法大師空海のことばに出会い、励まされ、僧侶を続けることができましたと感じています。

井底の鱗、逸に巨海に泳ぎ、蕃籬の翼、翰く寥廓に飛ばん。

「弁頭密二教論」

（真言密教の教えに出会えたならば、あたかも井戸の底に住む魚たちが自由に大海に泳ぎだし、籠の中に捕らわれていた鳥たちも自在に大空高く飛び回ることができるように、わたしたち衆生も煩惱に縛られることなく、自由を得ることができるであろう。）

また兎にも角にも、良き目標となる先輩僧侶や、多くのご信徒さんに出会うことができ、そして守られ支えられてきたことがあったからこそと、感謝する日々です。

お不動さまの心——(一一二四)

現代の世相から(87) 廣澤隆之

最近、スマートフォンを買い換えました。長いこと使っていた旧型のものはどうに修理のサービスを受けられない状態で、故障した際のデータの保存はできないと販売店から忠告を受け、仕方なしに新型のものを購入することにしました。購入が決まると、お店の人はさまざま設定など慣れた手つきで行います。その手際のように感心し、私は一日ではすまないと思ひ、私は最先端の世界から取り残されていることを実感しました。

そして購入した後に、スマホを私なりに使いやすくするためにいくつかの設定をしました。今までのスマホにはない生体認証を実験的にやってみようと思ひを試みました。私の顔をスマホに記憶させて設定をすると、スマホを手にするだけで即座にスマホが起動します。本人確認を必要とするアプリも顔認証で簡単に使えるようになってきます。

この顔認証は人工知能(AI)によって顔の特徴をさまざまに分析し、記憶することで本人であるかを確定します。銀行口座でも暗証番号などを入力する必要がなく、あまりに簡単な操作で振り込みなどの手続きができることに驚きました。今までパソコンで行っていた銀行口座の管理もスマホに変えることを銀行も勧めています。実際にやってみて便利さが実感できました。

さて新しいスマホにはこのようなAIのみならず、「生成AI」といわれる人工知能も組み込まれています。私は今までパソコンで生成AIを使うことは試みてきませんでした。私の仕事にはさほど必要と思えなかつたからです。

生成AIとは自己学習型の人工知能とも言うつらよいのでしょうか。生成AIは人間の脳の神経網のような無数の学習機能を組み込み、膨大なデータの処理をしつつ、演算処理を高めてゆきます。そしてコンピュータ自身で課題の組みあわせをし、推論し、判断をするようになります。これは人間の知能に似ていますが情報量が膨大なので

もはや人間の知能を超えているようにも思えます。そのためあらゆる産業や学問や芸術部門などで人間の知能に代わって大きな役割をするようになるでしょう。

このような画期的な生成AIは発展途上にありますが、そのシステムが私の購入したスマホにも入っていますので遊びのつもりで使ってみました。

まず「高幡不動尊はどんな所なのか」といった疑問には従来の情報処理でできますので、生成AIの推論と判断を知るために、「キリスト教徒やイスラム教徒に高幡不動尊をどのように紹介したらよいですか」と質問しました。従来の機械学習のコンピュータはデータを処理するだけですから、このような推論と判断を求め問いに答えることはできませんでした。ところが、

スマホの生成AIでは数秒で見事な答えが表示されました。宗教の価値観の相違に配慮することや偶像崇拜を否定するイスラム教に配慮して仏像を説明する



弘法大師像 北典生作

意義や視点の提示、また異文化共生の視点からの宗教の意義などを明解に示します。大学生のレポートとしては合格のレベルです。大学院生としてはレベルが低いですが。

そこで次に生成AIに、かつて駅前でビラ配りをしてきたキリスト教系の新興宗教の信者さんのように「あなたは神を信じますか」と質問しました。すると当然ですが、「自分は人間ではな

く論理的な(大規模言語モデル)演算処理機能なので個人的な信念は持ちません」と答え、神に関する基本的な情報を示し、価値判断は個人の信念に任せ、尊重すべきであると明示してきました。次に「あなたは死なないのですか」と質問しました。すると「私のようなAIは物理的な体を持っているわけではありませんが」と理由を述べ、「死という

概念は当てはまりません」と答え、さらに学習したデータやプログラムが更新されることで「私が存在しなくなる」という可能性にも言及します。

このようにAIは人間の知能の論理計算を異常に高度に発達させたプログラムですが、人間と同じになることは原理的にありえません。私たちは最終的には死に至る肉体をもち、その肉体を気にしつつ、その肉体が交わる自然界を受けとめ、さまざまな非論理的な感情をいだき、同じように感情をもつ他人との間でさまざまに交わります。そのような人間の行為を文化ともいえるでしょう。そしてまさしくこの文化の精華が宗教であるといえます。

思い悩み、喜び怒る人間は言葉によって他人と結びつき安らぎの場を求めます。論理的には説明できない祈りや感謝といった心情こそが人間を文化的に支えているのです。スマホはポケットに入れ、お不動さまの前で心静かに合掌し、己を見つめなおしたいものです。

廣澤隆之先生のプロフィール

● 大正大学名誉教授
● 浄福寺住職

ご奉納御礼

境内整備緑化資金

寄進者芳名

(令和六年十一月一日〜令和七年一月三十一日)

- 世田谷区 西部 純一
- 多摩市 森下 ひろみ
- 昭島市 (株) エコス
- 稲城市 寺尾 公平
- 相模原市 岩谷 久美子
- 彦根市 西澤 政男
- 彦根市 西澤 加奈子

幟旗奉納者芳名

(令和六年十一月一日〜令和七年一月三十一日)

世田谷区

(株)H&Mアセットプラス

- 中野区 山本 民子
- 調布市 山田 亜矢
- 東久留米市 佐野 和子
- 東久留米市 佐野 碧
- 清瀬市 沖山 順子
- 立川市 大森 久美子
- 立川市 大森 光明
- 多摩市 坂口 武洋
- 日野市 安川 雄
- 日野市 加藤 栄子
- 昭島市 五十嵐 麻実
- 町田市 諏訪 和世
- 相模原市 秋山 直子
- 相模原市 水山 希
- 日立市 入江 秀和
- 中央市 佐野 千尋

左記ご奉納頂き大変有難く厚く御礼申しあげます。
(敬称をすべて省略させていただきます)

大提灯奉納者芳名

(令和六年十一月一日〜令和七年一月三十一日)

- 多摩市 浅田 玲
- 日野市 土方 和
- 日野市 土方 悠人
- 日野市 (株)大塚 設備
- 八王子市 中津 満寿美
- 八王子市 高倉社 八手ビルテック
- 一、品名 庭石 七基
- 奉納者 日野市 滝瀬 高行

一、品名 稲荷社鈴紐

奉納者

- 日野市 山田 雅之

一、品名 山茶花他

奉納者

- 町田市 吉原 辰男



多摩八十八ヶ所巡拝のご案内

当山では昭和四十八年より毎年、四月から十月にかけて多摩八十八ヶ所巡拝を実施致しております。巡拝は初めての方でも先達のお坊さんの案内をいただき乍ら月一回の楽しい巡拝が出来ます。ご知友お誘い合せてご参加下さいませようご案内申し上げます。

記

- 一、巡拝 毎月第一週の火・木・日曜日 (五月は第二週)
- 一、会費 六〇、〇〇〇円(七回分) 分割納入も可 (納経料・バス代・保険料等を含む)
- 一、昼食 各自持参

※詳しくは高幡山事務局内「龍華会」まで

電話 〇四二五九一〇〇三二三番

「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」刊行のお知らせ

平成四年に出版された「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」を再編し、新冊子として刊行致しました。お大師様の信仰を深め八十八ヶ所巡拝をされてはいかがでしょうか。

一部 1,000円

※ご希望の方には郵送致します。

(送料三〇〇円)

電話 〇四二五九一〇〇三二三

龍華会まで





令和七年節分会 豆撒式 タレントの皆さんと 2/3

高幡不動尊
フォトニュース



遍照講講習会 久野雅照先生 11/26



不動堂前で木遣りを奉納 江戸消防記念会 1/10



常楽会詠歌奉詠 高幡山遍照講 2/15



踊る煤竹〜煤払い 12/13



田中成明先生のご法話～初不動 1/28



冬至星祭り法要 12/21



福銭作りのご奉仕 高幡山遍照講の皆さん 1/15



常楽会法要 2/15



日野市社会福祉協議会へ 12/26



一斉放水始め！消防演習 1/24



雨の節分会豆撒き式 2/3



AED講習会 12/13

春の行事案内

(毎月十五日にはお焚き上げが行われます)

◇三月

- 9日(日) フリーマーケット
- 16日(日) ござれ市(がらくた市) 《雨天決行》
- 20日(祝) 春分の日 彼岸会法要(午前七時) 大日堂
- 21日(金) 弘法大師正御影供 《午前七時》 大日堂
- 24日(月) 月例写経会(午後一時三十分) 千体地藏尊月例法要(午後二時)
- 28日(金) 月例祭(ご縁日)

◇四月

- 8日(火) 花まつり(灌仏会) 《午前十一時》
尚、甘茶接待は四月五日(土)～八日(火)まで行います。
- 13日(日) フリーマーケット
- 20日(日) ござれ市(がらくた市) 《雨天決行》
- 21日(月) 月例写経会(午後一時三十分)
- 28日(月) 29日(祝) 春季大祭国宝まつり

◇五月

- 10日(土) 11日(日) 第二十八回ひの新選組まつり
- 11日(日) フリーマーケット
- 18日(日) ござれ市(がらくた市) 《雨天決行》
- 21日(水) 月例写経会(午後一時三十分)
- 24日(土) 千体地藏尊月例法要(午後二時)
- 28日(水) 五月大祭

花まつり法要と甘茶接待

四月八日にお釈迦様のお誕生をお祝いする花まつり法要が執り行われます。灌仏会とも呼ばれるこの法要は、お釈迦様がルンビニーでお生まれになったとき龍王が甘露の雨を降らせて祝福した故事にならい誕生仏に甘茶をそそぎます。

当山でも花御堂を飾り、誕生仏に甘茶をそそぎ、お祝いの花まつり法要(灌仏会)が行われます。

甘茶接待 四月五日(土)

～ 四月八日(火)

花まつり法要 四月八日(火)午前十一時

お稚児募集

来る四月二十八日(月)の春季大祭国宝まつりのお稚児を左記の通り募集致します。奮ってご参加下さい。

記

- 一、日時 四月二十八日(月) 午後一時
- 一、集合 午前十一時三十分
- 一、申込 四月二十五日まで
- 一、冥加料 金壺万円也
(お護摩料、お守り札、稚児袋、お供物、衣裳料、化粧料、軽食二人前)
- 一、年齢 三歳～七歳位まで
- 一、ご準備 服装自由(しき紐・細紐を各一本ご持参下さい)
履物はなるべく草履・足袋をご持参下さい。



春季大祭国宝まつりのご案内

○四月二十八日(月)

春季大祭国宝まつり 世界平和祈願

稚児練供養大護摩修行……………午後一時(不動堂)

○四月二十九日(祝)

千体地藏尊総回向法要……………午前十一時(千体地藏堂)

※奉納神輿練り(地元愛好会奉仕)

出店 がらくた市(骨董市) ほか

◎五重塔仏伝彫刻拝観は

客殿建設工事に伴いお休み致します

寺務局・ご朱印所 移転のお知らせ

客殿・寺務局棟建設工事に伴い、寺務局・ご朱印所を五重塔塔院地下ホールに移転致します。

入口は段差が多い為、車イス等をご使用の方は、宝輪閣へお問い合わせ下さい。

月例写経会の お知らせ

建設工事に伴い、三月から左記のように変更致します。

記

一、日時 毎月二十一日

十三時半から

一、会場 五重塔千体地藏堂

(受付は五重塔寺務局)

一、人数 五十名(事前予約制)

※一ヶ月前よりお電話等にてお申し込み下さい。

千体地藏尊総回向法要

左記によって千体地藏尊総回向法要を勤修し、皆様方の諸願成就・万霊供養をご祈念申しあげます。ご知友をお誘い合わせてご参拝下さい。

記

一、日 時 四月二十九日(祝) 午前十一時から

一、会 場 塔院千体地藏堂

一、冥加料 金貳千円也(但、お札料)

◎ご回向の塔婆をご希望の方は別に参千円(一俵)を添えてお申し込み下さい。

御詠歌始めませんか

『密厳流御詠歌』講員募集のご案内

御詠歌とは和歌調の詞に節を付け鈴・鉦を使ってお唱えする仏教歌で、彼岸会・花まつりなどの法要でお唱えします。高幡山では次のとおり御詠歌の新講員を募集しますので、大勢様ご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

一、名 称 遍照講高幡山支部

一、参加資格 どなたでもご参加いただけます

一、指 導 密厳流遍照講師範

一、会 費 一ヶ月 三、〇〇〇円

(但し、鈴・鉦などの道具は別費)

一、稽古日時 月二〜三回 午前十時〜十二時

お問い合わせ先 高幡不動尊内「遍照講高幡山支部」

電話 〇四二五九一〇〇三二



かすみ 霞にまごう 桜花
 にしきお 錦織りなす もみじばも
 よは 夜半の嵐に さそわれて
 いろは 色はにほへと
 ちりぬるを 散りぬるを

「いろは和讃」

山内消息

煤払い (12/13)

山内職員総出で煤払いが行われました。竹の先に笹の葉を付けた大きな煤竹を作り、普段掃除できない場所も念入りに行い、今年一年の汚れを落としました。煤払いが終わった事で、山内も徐々に迎春の準備がはじまりました。

(松本記)

星まつり

十二月二十一日午後五時、不動堂に於て星曼荼羅をおまつりし、星まつり大護摩供法要を勤修しました。大勢の方が参列し法要後は四〇〇食の冬至うどんが完食となりました。

(伊大知記)

牛王宝印のお授け (1/15)

一月十五日は年に一度の牛王宝印をお授けする日でした。重要文化財の不動王様と同じ木で作られ、無病息災、息災延命、健康長寿のご利益があると伝わる宝印で、不動堂の内陣参拜の際に御信者様一人一人の額にボンと宝印を当てるお授けします。来年もお授けしますので、どうぞご来山いただき特別な宝印をお受け下さい。

(杉田周記)



総本山智積院ご一行様

総本山智積院御内局様来山 一月十七日、京都の総本山智積院より三神栄法宗務総長をはじめ、各部長様総勢八名が新年の御挨拶に来山されました。一行は大護摩修行に参列され、世界平和、国家安穩、宗門繁栄そして檀信徒の安寧を御祈願され、その後大本山高尾山薬王院様へ登られました。

(佐竹智記)

消防演習を実施 (1/24)

一月二十六日の文化財防火デーに先立ち、消防演習を実施しました。今年は五重塔植え込みから火災が発生したと想定し、商店会、出入出店業者、自衛消防隊による初期消

火に続き、日野消防署、地元消防団による一斉放水で演習は締めくくられ、晴天の空に伸びた水柱は壮観でした。文化財防火デーのスローガン「育てよう歴史を守る防火の心」を胸に日頃の防火の意識が高まりました。

(丸山幸記)

豆煎式

一月三十一日、節分会豆撒式の福豆を煎る豆煎式が、不動堂前大香炉にて行われました。近隣のわかくさ幼稚園の園児さんや来山いただいた御信者様にお手伝いいただき、今年の福豆を煎っていたきました。園児達の純粋な福が沢山の方のもとに届きますように。

(五十嵐記)

常楽会

お釈迦様がご入滅された二月十五日、大日堂に昨年修復を終えた涅槃図をおまつりし、真言宗智山派東京多摩教区智山青年会のご協力をいただき常楽会法要を勤修しました。僧侶による幽玄な声明と流麗な御詠歌によりお釈迦様を偲び、法要前には板橋区の青蓮寺ご住職、花木義賢先生に「暮らしの中の仏教」と題したご法話をいただきました。



お不動様の御姿 御朱印帳

1冊 1800円



「エイエイオー」四季の部 銀賞 海老名市 清水 進

各 種 募 金 総 計 表 (令和7年2月25日現在)

インドハンセン病救援金	(21回)	15,900,000円也
阪神大震災救援金	(4回)	4,104,039円也
トルコ大地震救援金	(1回)	1,000,000円也
台湾大地震救援金	(1回)	1,000,000円也
三宅島災害救援金	(2回)	2,000,671円也
インド大地震救援金	(1回)	512,609円也
○イラン大地震救援金	(1回)	1,000,000円也
カンボジア小学校建設資金	(1回)	100,000円也
ラオス教育振興資金・井戸掘削援助資金	(1回)	800,000円也
新潟中越地震・中越沖地震救援金	(3回)	3,100,000円也
○スマトラ沖地震大津波災害救援金	(1回)	200,000円也
スリランカ・スリジナラタナ社会福祉協会	(1回)	1,030,000円也
○アフガニスタン児童教育援助金	(7回)	5,500,000円也
○アフリカ緊急募金	(18回)	7,400,000円也
パキスタン北部大地震救援金	(1回)	1,000,000円也
ジャワ島地震救援金	(1回)	1,000,000円也
能登半島沖地震救援金	(1回)	250,000円也
○ソロモン諸島沖地震救援金	(1回)	250,000円也
○ミャンマー大洪水救援金	(1回)	500,000円也
四川省大地震救援金	(1回)	1,000,000円也
読売愛と光の事業団社会福祉事業基金	(1回)	300,000円也
スマトラ・サモア地震救援金	(1回)	200,000円也
中米ハイチ大地震救援金・チリ大地震救援金	(3回)	1,300,000円也
宮崎県口蹄疫被害畜産農家救援金	(1回)	1,000,000円也
日野市社会福祉協議会への寄附	(26回)	7,800,000円也
東日本大震災救援金	(18回)	32,000,000円也
ネパール大地震救援金	(1回)	1,000,000円也
熊本地震救援金	(4回)	5,000,000円也
西日本豪雨災害義援金	(1回)	1,000,000円也
令和元年台風15号・19号災害義援金	(1回)	1,000,000円也
ウクライナ人道危機救援金	(1回)	500,000円也
2023年トルコ・シリア地震救援金	(1回)	500,000円也
2024年能登半島地震災害救援金	(2回)	7,470,459円也
総 計	(130回)	106,717,778円也

募金の御礼とご報告

高幡不動尊金剛寺執事

平成九年以降皆さまから寄せられました各種募金の合計は左記の通りでございますので御礼傍々ご報告申し上げます。

尚 ユニセフ関係募金(○印)は合計一、四八五万円になっております。



・日 時 六月十五日(日) 午後一時から
 ・会 場 大日堂(聴講無料)
 ・講 師 川崎大師平間寺総務部内務課長
 朝日カルチャーセンター横浜教室講師
 橋本秀範 先生

平成十五年より現在に至るまで児玉義隆師(梵字悉曇学第一人者 種智院大学副学長)に師事し、梵字悉曇を学ぶ。「監修『梵字のきほん 歴史から意味、読み書きまで理解を深める手引き』令和4年 メイツ出版」

・演 題

「梵字悉曇のお話」

青葉まつり記念法話



御朱印袋 1800円

お不動様の御朱印帳と同じ絵柄で黒地にお不動様のお姿が織り込まれています。

節分会

本年は雨天にもかかわらず多勢の年男様にご参加頂きました。特別参加された方は、藤田朋子さん、つのだ☆ひろさん、風間トオルさん、寺泉憲さん、藤原浩さん、其原有沙さん、G.G.佐藤さん、宍戸マサルさん、岩崎愛子さん、二〇二五ミス日本の皆さん、ハローキティの皆様です。



風間さん・藤田さん・つのださん

くの福を届けられる事を願っています。

俳優 寺泉 憲

毎年、節分は二月三日と思いい込んでましたが、今年は二月二日！実は二〇二二年も一二年ぶりの二月二日だったとか！

歌手 つのだ☆ひろ

高幡不動尊節分会と呼ばれて何年になるだろう、いやざつと数えて二十五年以上になります。私くしも今年七十六才、力のある限り皆様に福を届け、元気を届けます。弘法大師様に感謝です。合掌

俳優 風間トオル

一年の始まりの節分のお祝いに参加出来て、身が引き締まる思いでした。皆さんに多

ブラットガール 其原 有沙
今年で参加は三度目になります。あいにくの雨で残念でしたが沢山の方にお越しいただき、とても嬉しかったです。私は年女なのでヘビー級の福がみなさんに届いていますように。精進料理もおいしかったです。いつもありがとうございます。

元プロ野球選手 G.G.佐藤
たくさんの笑顔を見せて幸せでした。良い経験をさせて頂き、ありがとうございます。

歌手 宍戸マサル

本年も参加させて頂き誠にありがとうございます。格式高い行事に参加できた事大変光栄に思います。皆様にたくさんの福が来ます様に。

歌手 岩崎 愛子
雨が降る寒い中でも、沢山の方が来てくださり、境内が賑わっていて嬉しかったです。皆様にとつて健康で幸多き一年となりますことを祈念しております。今年も「高幡音頭」を歌って全国に福を届けたいります。

歌手 岩崎 愛子

雨が降る寒い中でも、沢山の方が来てくださり、境内が賑わっていて嬉しかったです。皆様にとつて健康で幸多き一年となりますことを祈念しております。今年も「高幡音頭」を歌って全国に福を届けたいります。

感謝 合掌

二〇二五ミス日本グランプリ
二〇二五ミス日本ミス着物
石川満里奈
寒さを忘れてしまうほど楽しい時間を過ごすことが出来ました。「豆まき」という日本行事を通して沢山の方々と笑顔と福を共有することができ、とても嬉しく思います。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました！！

二〇二五ミス日本「水の天使」
高坂実優

とても楽しく参加させて頂きました。貴重な体験をありがとうございました。携わって下さった全ての方々へ感謝申し上げます。

二〇二五ミス日本みどりの大使
佐塚こころ

豆まきに、自分が撒く側として参加する事は今回が初めてでした。生憎の天気でしたが、初回から観客の皆様期待您的笑顔で、やる気が溢れ、気がつくとお昼、そして最終回と時間があつという間に過ぎていきました。五回も豆を撒いたのに全く疲れは感じておらず、本当に楽しかったという感想しかありません。私

達にこのような出番を下さった方々へ心から感謝の気持ちでいっぱいです。

二〇二五ミス日本「海の日」
高橋 彩乃

初めての経験で、とても不安でしたが、お寺の方や着付けの方々の温かいサポートで非常に楽しく行うことができました。本当にありがとうございました。

二〇二五準ミス日本
長尾巴葉子

人生で豆まきをする機会はなかなかないので貴重な経験ができ、嬉しかったです。年男の方には、自分の子供や孫に向かって豆を投げる方もいて、年男だけでなく家族で良い思い出をつくる事ができる行事だと思いました。



大人気のハローキティ

境内の春の植物をお楽しみ下さい



イカリソウ



ウグイスカグラ



オオアラセイトウ



カタクリ



カンスゲ



キクザキイチゲ



クロツバキ



クロモジ



サキワケノウメ



サンシュユ



ジュウニヒトエ



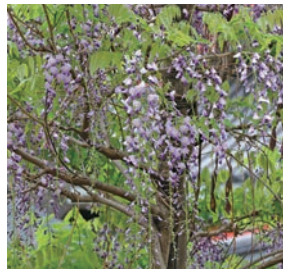
ショウジョウバカマ



ニリンソウ



ヒメウツギ



フジ



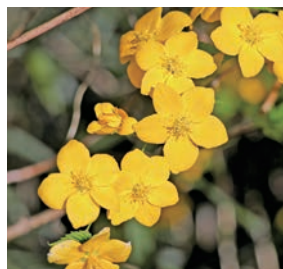
ホウチャクソウ



ボタン



ムサシアブミ



ヤマブキ



ユキヤナギ

諸行事に参加して

成人式(1/13)

植田 羽衣

成人式を終えて、私は人と
の繋がりを大切にしようと思
いました。私は中学受験をし
地元でない中学へと進学しま
した。そして、この成人式や
同窓会にて七、八年ぶりに同
級生と再会しました。思っ
たよりも皆あたたかく迎
えてくれて、久々に話した同級
生は、皆それぞれの人生を歩
み、その違いを感じながらも、
どこか懐かしく感じました。
これからも一期一会を大切に
強く、強い繋がりを築いてい
きたいです。

李澤 真優

成人式に参加し、中学の同
級生と会ってまず、みんな変
わっていないくて懐しいと思
いました。見た目は大人っぽ
くなっていました。が中身は昔
のまままで、なぜか嬉しかっ
たです。両親のおかげで着た

瑞穂町消防団 高橋 洋一
貴重な体験をさせていた
きありがとうございます。不
動様のご加護を得たようで、
心がとても落ち着いたよう
に感じました。今年も防災に
力していきます。

昭島市 桑島 昭二
牛王宝印のお授けは、初め
の事でビックリしました。

牛王宝印お授け(1/15)



牛王宝印のお授け

稚児行列(1/28)

町田市 朝倉 遼一

お天気も良く、思い出に残
るお稚児さんになりました。
町田に住んでいるので、な
かなか来ることが難しい
ですが、高幡不動尊で初め
てのお稚児さんができて良
かったです。職員の方もと
ても親切でした。ありが
とうございました。

羽村市 岡部 秀一

今回、二回目の参加をさ
せていただき、前回の国宝
まつりとは違った楽しみな
りました。今年、第二子の
予定もあり、兄弟で参加
できたらと思います。

東村山市 浅見 愛
初めて初不動に参加さ
せていただきました。稚
児行列で

初めて初不動に参加さ
せていただきました。稚
児行列で、お不動様のお
膝元でお参りさせてい
ただき光栄でした。毎年
のお参りと違ったお参
りができ、稚児衣装を着
せていただくことで、と
ても貴重な体験となり
ました。

町田市 手塚 紀子

今回初めて稚児お練りに
参列させていただきました。
年に数回参拝してはあり
ますが、このような大切
な行事に参加させてい
ただき、七才の娘にと
ても貴重な体験となり
ました。感謝しております。



お稚児のお練り

豆煎式(1/31)

日野わかき幼稚園 千葉美菜子

娘がわかき幼稚園に入
園して、初めて豆煎り式
を知りました。お坊さん
に抱えられながら大き
なしゃもじを持って豆
をかき混ぜた事、豆ま
きをした事はもちろん、
堂内の御護摩も、幼稚
園のお友達と一緒に
行えた事は子ども達
にとっても貴重な体験
であり、思い出に残る
出来事になったと思
います。

日野わかき幼稚園 浅沼 樹

幼稚園の代表として、年
長組親子が豆煎り式に
参加させて頂きました。
御護摩ではお坊さん
たちによるお経がはじ
まると、きちんと座り
直した



豆煎り式

り背筋を伸ばしたり、立派にお経を聞く子どもたちの姿がありました。その姿がとても頼もしく、親としてとても嬉しくなりました。豆煎り式では大きな杓文字で豆をかき混ぜる体験をさせて頂きました。豆を煎る感触や音、火の熱さなど子ども達は五感でたくさん

の事を感じたと思います。伝統行事に親子で参加させて頂き、とても貴重な体験となりました。

日野わかき幼稚園 白井 薫

親子共に初めての豆煎り式に参加させて頂きました。静けさの中で始まった護摩修行では、しっかりとお坊さん

のお経を聞き、お不動様に手を合わせてお参りする子供たちの姿に成長を感じました。その後の豆煎り式では、大きな鉄鍋に入った豆を混ぜるという初めての経験をした娘に感想を聞いたところ、良い香りがした、混ぜるのが楽しかったと話していました。日々自分の力ではどうすることもできない出来事が起こっている中で、信仰や伝統に触れることは子供たちにとってもとても良い経験だと改めて思いました。

日野わかき幼稚園 田原真由子

「お坊さんに持ち上げてもらって混ぜ混ぜするんだよ」と、何日も前から楽しみにしていた豆煎り式。新生児祈願

七五三と、節目節目にお護摩修行をしてきたため、お堂の中で正座をして儀式を見つめる子供の様子を見て、年月の経過と共に着実に成長しているのだと感慨深い気持ちになりました。実際に豆を煎る場面では、大きな杓文字を持ち鍋の中を見つめながら嬉しそ

うな顔で豆を混ぜる子供の姿がありました。我が子の満足そうな表情も見られ、特別な経験をさせて頂いただけの事で大変ありがたく感じました。

常楽会(2/15)

立川市 服部 朋子

何度か来させていたのですが、いつも気持ちが悪く落ち着き、良い時を過ごさせていただけいております。本日の法話もとても身近で分かり易く良いお話でした。

相模原市 安藤 紗織

普段の生活を送る中でも、自分が健康に生きていられるだけで、ありがたいことだと思えました。

調布市 会田 慧

花木先生のお話が面白くてよかったです。所々クスツとさせておいて、でも大事な話もきちんとする話術に驚かされました。

立川市 服部 友香

初めて法話と法要に参加させて頂きました。一日一

つでも善い行いをしたいものだと思うことができました。ありがとうございました。

日野市 島野 敏明

アニメを題材にした感謝の気持ちに関する法話でしたがありがたく聞かせてもらえました。

町田市 渡邊 真美

自分のお寺のお坊さま以外で、ご法話を聞く機会がありませんでしたので、面白く聞かせていただきました。ありがとうございました。



花木義賢先生のご法話(常楽会)

アルバイトは、二年目となりました。昨年の経験から、仕事の内容、要領を理解し、交通安全祈願所の業務に取り組むことができました。皆様のおかげで楽しく仕事ができました。また、ご指導やサポートいただいたこと、心から感謝しています。ありがとうございました。この経験を活かし、今後も一層努力していきたいと思えます。

光山 沙良

先輩や職員の方々と励ましながら年末年始の繁忙期を乗り越え、つい怠けがちな大学生の長期休暇を有意義な期間にすることができました。参拝の方の多さに日々圧倒されるながらも、初不動や節分などの行事を通して、高幡不動尊が多くの人を振り所となる場所であることを身にしみて感じました。このような文化的価値のある場所で素敵なアルバイト経験ができて良かったです。来年もぜひ参加したいと思えます。

アルバイト

高宮 仁美

高幡不動尊での何末年始ア

奥殿だより 第十一回

土方歳三の年賀状

もはや桃の節句というのに、今さらとお思いかもしませんが、今回は土方歳三の年賀状について、ご紹介したいと思います。

ここに写真と翻刻を掲載したのが歳三の年賀状です。追伸部分の内容と後半に一緒に表具されている「天保山警護図」によって、文久四年（一八六四年）一月八日に上坂した第十四代将軍徳川家茂警護のために、新

土方歳三書簡 平忠右衛門、平作平宛
文久四年一月十日附

【翻刻】

再白、今殿

御上洛二付、去ル二日下坂、一昨八日浪花へ御着被遊候御砌、御警固被仰付候ヶ処、

略凶愚書裏ニ相認申候、御一覽

可被成下候、以上、

新曆之御吉慶、無休期

申納候、先以其御砌被為揃、弥

御清栄ニ御超歳被成、千万

芽出度奉賀候、御次ニ小子も無異ニ

加年在勤仕候、乍慮外御放意

可被成下候、先ハ年甫御祝詞を

申上度書入置、猶期後日時候、

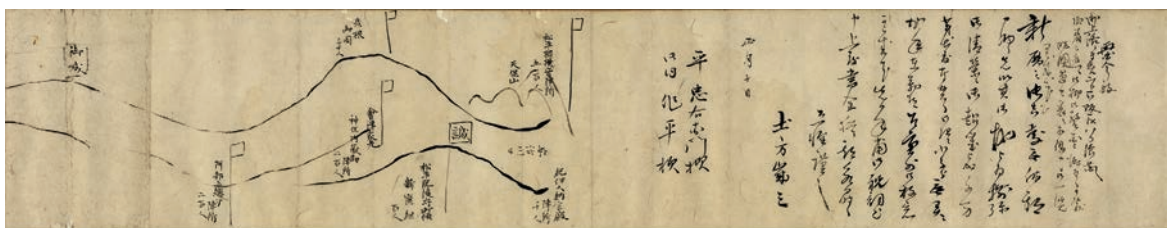
恐惶謹言

土方歳三

正月十日

平 忠右衛門様

御内作 平様



「天保山警護図」

【年賀状部分】 【追伸部分】

選組が安治川河口に布陣したことを、郷里に知らせるための書状であると思われるおられます。しかし、その部分は年賀状の追伸部分で、本体は年賀状です。

現在のように年賀状を送達することが一般化したのは、明治四年（一八七一年）の近代郵便制度の開始以降で、一八八〇年代後半には、一般庶民の間でも定着するようになっていったようです。

それでは江戸時代にはどうであったのでしょうか。江戸時代には年始挨拶に何うのが基本で、庶民の間では年賀状は一般的ではありませんでした。

江戸時代には、公儀御用の継飛脚、大名が江戸藩邸と国許を結んだ大名飛脚、庶民が利用した民営の町飛脚の三種がありました。商業活動の活発化によって、商人達の町飛脚の利用は増加していきました。

江戸後期から幕末期に書かれた喜田川守貞の「守貞謾稿」と言う、一種の百科事典があります。江戸、京都、大坂の三都の事物や風俗を書留めたものです。同書に依れば、町飛脚には所

要日数によって、並便り、十日限、六日限（早便り）、四日限仕立飛脚の四種があったと言います。並便りは馬で書状や荷物を運んだが、夜は必ず宿すことになっていたので、江戸から大坂までは三十日間を要したと云います。日野市所蔵古文書中に、日野宿名主佐藤彦五郎が京都本願寺を宿所とする近藤勇に書状を送った際の飛脚賃の受取書がありますが、六日限で錢四一六文でありました。現在ならば二千円位でしょうか。

飛脚賃は一般庶民にとっては決して安いものではありません。一般庶民の間での年賀状の遣り取りは普及していませんでした。

新選組関係者の年賀状とされるものも、遺存するものは多くなく、送っていないのか近藤勇の年賀状もありません。

そして、ここに紹介した書状もそうですが、飛脚賃が高いので、年賀の詞だけではなく、追伸として様々なことを書くのが普通です。むしろ追伸の方が主題のような感じがします。

（藤井和夫記）

高幡いきもの曼荼羅 ③⑩

先代川澄貫主は常々高幡不動尊の一番の見どころとして「三万坪の緑」を挙げておられました。裏山を含む広大な境内は正に高幡不動尊の宝といっても過言ではありません。四季を通して様々な動植物の営みを目にすることが出来、自然に親しむにはもってこいの場所でもあります。

このように多様ないきものの息吹が身近に感じられるのは、古来より続く人と自然との豊かな関係が急激な近代化で変質し、時と共にお寺や神社という信仰に守られた環境に集約されたためだと思えます。ただそれは閉鎖された空間ではなく外部に開かれることで、形を変えながらも繰り返し現れるフーガの主題のように、生命の様々な諸相として輪廻転生しているのです。

ここで境内にある一本の梅の木に注目してみましよう。梅の木は緑の境内の構成要素であり、ひとつの生命体でもあります。春に花を咲かせて花粉や蜜を生成し鳥などの生き物を養うと同時に、自らの繁殖を促します。初夏には青梅が実りますが、若干の毒性があるので昆虫以外は人間が毒抜き加工をして保存食にします。このように梅の木一本をとっても生命のサークルが連鎖の輪を広げているのです。斯様に三万坪の緑は多種多様な「いきもの」からなる生態系の曼荼羅なのです。

なにげなくつかっている仏教のことば—実際(じっさい)

わたしたちは日常会話で、「く」とほぼ同義のものとして「実際にやってみないとわからない」「理論と実際とは違う」といったように、事実や現実のありさまを言い表す言葉として「実際」を用いています。また、「実際あきれた」のように、「ほんとうに」や「まった

く」とほぼ同義のものとして「わ(や)「実際」ということばに、どこか深遠で、それを求めて止まない響きを帯びているように感じるの、わたしだけでしょいか。

(小林靖典)



梅の土用干し



梅の実



梅花とメジロ

お不動さま教えて？

ご質問 お不動さまのお護摩の法要では、どのようなお経が唱えられているのか、また、その意味内容はどのようなものなのでしょうか。どうかお不動さま教えてください。

お答え

はい、お答えします。前号では《般若心経》の内容についてお話をしました。つぎに唱えられるの

は、《お不動さまの真言》です。



《観音経》

が唱えられて、積まれた護摩木に点火されると、その火は《般若心経》を経て徐々に勢いを増し、《お不動さまの真言》が唱えられるころには最高潮に達します。

しており、そのため《慈救ノ咒》と称されています。

このとき、導師がお護摩札を火にかざして加持することで、お不動さまと火、お護摩札、そして導師が一体となります。こうして加持されたお護摩札は、お不動さまの分身として、ご信徒の家庭などに安置されるのです。

さて、《お不動さまの真言》は「ノウマクサマンダバザラダンセンダマカロシヤダソワタヤウンタラタカンマン」と唱えま

(次号につづく)

〜 献花のおすすめ 〜

お花講 講員の募集

当山ではお花講講員の皆さま方の会費により、山内全ての伽藍のお花を飾らせていただいております。大勢様ご入講下さいますようお願い申し上げます。

記

- 一、名称 高幡山お花講
- 一、会費 一ヶ月 五〇〇円

※入講は随時承っております。

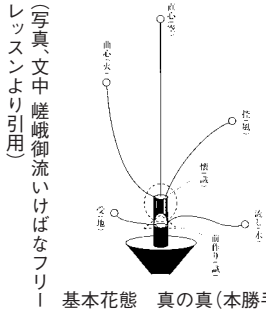
ご入講の皆様には輪袈裟を授与します。



大覚寺門跡推薦教室 いけばな 嵯峨御流 「第5回」



真の真(本勝手)



(写真、文中嵯峨御流いけばなフリ
レッスンをより引用)

嵯峨御流いけばなの各様式の中で、色彩的にも構成的にも、最も重厚多彩な趣をもっており、真言密教の六大思想を基本原理としている花が、「莊嚴華」です。莊嚴華は、六つの役枝によって構成されています。下位より地・水・火・風・空と名付け、それらを花の中央でまとめるのが、「識」です。そして地は「受」、水は「流し」、火は「曲心」、風は「控」、空は「直心」を枝の名称とし、識は「前作り・懐」とそれぞれ名付けています。

基本花態は、真・行・草の三態に大きく分け、さらに真に真・行・草、行に真・行・草、草に真・行・草があり、全部で九花態になります。加えて発展的にとらえた応用作品として、五つの役枝にさらに「和の枝」を追加していく「不二の花」と、空を中心として役枝を省略していく「空相の花」があります。花材においては和種、洋種のもの美しく混挿させながら、仏前を莊嚴する花としてののみならず、その姿は華やかなどの会場に一層の華やかさをもたらす花が、嵯峨御流の「莊嚴華」なのです。

(講師 納富貴甫)

御◆案◆内

交通安全祈願

午前九時〜午後五時
午後四時半までにお申込下さい。

○ご祈願料 金三、〇〇〇円也

御護摩修行

○平日 八時・十時・十一時半・一時・三時
○土曜・日曜・祝日
八時・十時・十一時半・一時・二時半・四時

○但し一日、十五日の午前中は五時・十時・十一時半

○ご縁日(二十八日)

五時・九時・十時・十一時・十二時・一時・二時半・四時
○御護摩料 金三、〇〇〇円也
金五、〇〇〇円也
金一〇、〇〇〇円也

(大護摩)金三〇、〇〇〇円以上

ご縁日 毎月二十八日
境内に市が立ち参道は歩行者天国になります。

フリーマーケット(リサイクル市)
毎月第二日曜日(雨天中止)
ござれ市(がらくた市)

毎月第三日曜日(雨天決行)
お焚き上げ
毎月十五日午前九時

月例写経会

毎月二十一日午後一時半
千体地藏尊月例法要
毎月二十四日午後二時
奥殿拜観(月曜休館)

午前九時〜午後四時
拝観料 三〇〇円

大日堂 鳴り龍・襖絵拜観
午前九時〜午後四時
参拝料 二〇〇円
(月曜休館)

尚法要中は拜観一時休止になりますのでご諒承下さい。

編集室だより

今冬は節分過ぎてからの寒波による豪雪。片や関東地方では連日カラカラ天気が続きました。迎春の仮設物の撤去も済んで普段の境内にもどりました。天皇誕生日にはご信徒様の佛前結婚式が寒い中でしたが杉田貫主ご戒師のもと厳かに執り行われました。

今号は年末年始諸行事のご報告、春の植物写真等掲載いたしました。皆様のお手元に山報が届く頃には咲いているお花が沢山あるかも知れませぬ。

発行所

〒191-0031 東京都日野市高幡733
別格本山 高幡山金剛寺
電話 (042) 591-0032(代)
FAX (042) 593-3038
発行人 黒川高徳
編集人
年4回発行・再生紙使用